©Ko Yamada & Breaker Project

記憶の報道

なるへそ新聞内容充実

思い出は二度だ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三月末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人が人に話を聴き、手作りで遺していく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田旦氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の橋渡しともなっていく。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を超えて街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報酬腕章とメモ帳が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

発行:西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人:山田旦
編集:ブレーカープロジェクト実行委員会
山田旦・村田仁
印刷:村田仁

壁新聞設置

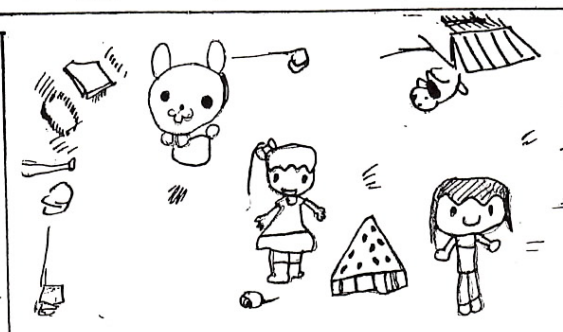
約六、七ヶ所

なるへそ新聞社(大阪市西成区)はこのほど「なるへそ壁新聞」を山王及び太子を中心に店舗前や商店街の壁スペース等約六、七カ所に設置する。今回の設置は新聞の存在を知っていただくためのもので、三月に発行された第一号をA1サイズのポスターに復刻したものが貼り出される。雨の季節に撥水加工の必要等も叫ばれているが、大きくなった新聞に目を留めて頂ければと期待がふくらんでいる。

プリンセスライン大流行

奥様方が殺到

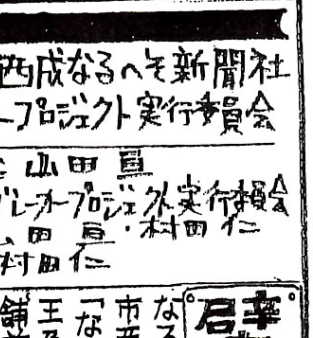
中央区の店から親子二代で営む西成区の同じ洋品店に嫁いできたおしゃれガールは、店の手伝いや家事に忙しい毎日だ。既製品の洋服が出始め、フレアスカート、ツイッギーが着るミニワンピースなどが街の若者たちに大流行。商店街に働く奥様方は、日々家業が忙しく、デパートへ買い物に行けないので、街行く女性が着ている洋服を参考におしゃれを楽しんでいた。可愛らしいプリンセスラインのワンピースを着た奥様を見掛けると、同じものを買い求める奥様方が殺到。店には一番売れ筋であるそのワンピースが、色柄違いの各サイズを揃えており、毎日四~五着は売れて行く。流行服だけ扱っている洋品店では無いため様々な接客で、てんてこまい。街には、同じスタイルの女性が増えたが、皆満足そうに購入していく。



ARTSの湯

~ふろやさんわ~

国家志望だった二代目、林繁一さん(37)は、以前淀川近くの経営していた銭湯での手腕を買われて、さんわ温泉にヘッドハントされた。その後屋号を「ふろやさんわ」と変更し経営にあたる。花街の入り口近くのお店は女性客が多くにぎやかである。切り盛りは、先代、二代目繁一さんと奥様だ。特に奥様が働き者で、頭が上がらないと語る繁一さん。先代の「繁一や~画家でめしが食えると思ってんかあ?」の一言で、銭湯の世界に飛び込んだものの画家としての夢はあきらめていない。人物画や風景画などを得意とし、下足箱の上には多くの作品が所狭しと並び展覧会場のようだ。芸術そこよなく愛する繁さんの銭湯は、ご近所の多くの方から評判のアーツ(ARTS)めの湯もあります。



広告主募ム

湯 ふろやさんわ
朝6時~夜12時 定休日毎週土曜日
天下茶屋北1-1-12

Kioku 手芸館 たんす
お家のタンスに眠っている編み物を眠って下さい。
山王1-11-5(元・鈴木タンス店)

全酒類 食品販売
BEER WINE BRANDY SAKE
柳本商店
山王1丁目12番4号

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net